第７回目板井原訪問　　平成 24 年 11 月 9 日

久しぶりに板井原を**訪問！**

　今回の訪問目的は紅葉真っ盛りの秋の板井原の紹介と、この地に住み着くことになった、地域おこし協力隊の青年にインタビューするためです。

も、もみじが、き、綺麗すぎる！

綺麗な女性が着物姿で**登場！**（実は３年生のボランティア委員）

五右衛門風呂焚き中…。夕暮れ時の煙は・・・・

彼の名前は大澤祐介（おおざわゆうすけ）さん。年齢はなんと23歳と意外と若かった。出身地は滋賀県。僕たちにとっては遠いところ。

僕たちは大澤さんにインタビューをしました。

＜質問１：智頭にこられた理由は？＞

インターネットで板井原集落を見て住んでみたいと思ったから。

＜質問２：現在はどのような生活をしておられますか？＞

畑仕事や近所の人の手伝いをしながら生活している。

＜質問３：今後はどのような取り組みをしようと思われますか？＞

板井原道路の清掃やゴミ拾いをしていきたい。

＜質問４：高校生が一緒に取り組めそうなことはありますか？＞

まだわかりません。これから一緒に考えていきましょう。

《感想》

大澤さんはいい人だと思いました。いろいろなことを聞けたのでよかったなと思いました。次に会ったときは一緒にお手伝いをしたいなと思いました。（T.Y）

向山神社の紅葉は本当に綺麗でした。その中で着物姿の本校の生徒も、とても景色とマッチして美しく、まさに絵になる光景でした。晩秋の板井原集落はかっての日本の山村の姿を彷彿とさせ、どこか懐かしく、心落ち着かせるものでした。

滋賀県から来た大澤青年。ネットの中で知った板井原の美しさに惹かれてきてみたら、たまたま町の職員応募に出会って、運良く採用。総務省が所管する「地域おこし協力隊員」として、3年間板井原に関わることになったそうです。住民の方ともすでに打ち解けて気楽に声をかけ合う関係になっていたようです。今後は高校生たちと板井原の活性化に向けて一緒にやっていけそうな、そんな雰囲気の方でした。

私たちがインタビューしている横では朝日新聞社の記者が、大澤青年を一緒に取材中。それが記事になっていました。（顧問）

平成 24 年 11 月 26 日
朝日新聞　鳥取版

板井原在住「地域おこし協力隊」

大沢 祐介さん（23）

″お茶友達″年の差越えて

智頭町の「地域おこし協力隊」として、先月から板井原集落に住み始めた。任期は最長3年。「若者を呼んで、集落の人と一緒にお茶会をしたい」と、アイデアを思案中だ。

出身は滋賀県長浜市。高校卒業後、東京の専門学校に入ったが、2年間の都会暮らしを経て、「自然の中で生きたいと思った」。アルバイトでためたお金でフランスへ行き、1カ月かけて農村をまわった。「地方でも古い建物がそのまま残っていて、感銘を受けた」

日本に戻り、昔のままの原風景を求めていたとき、インターネットで板井原集落を見つけた。入居の相談に役場へ行き、「協力隊」を打診された。突然の話に戸惑いもあったが、「集落の人はほとんどが80代。若い人の関心を集めて地域の活性化につなげ、地元の人に喜んでもらいたい」と意気込む。

これから厳しい冬がくるが、四季の移り変わりを満喫するつもりだ。

（村井七緒子）